

## 婦人雑誌にみる子供服への関心 ～昭和後半期の生活意識変化～

内 田 直 子

### 1. はじめに

第二次大戦後の混乱期を過ぎた昭和後半期は、昭和35年に池田内閣が発足し、「国民所得倍增計画」が発表されて高度成長期を迎えたが、昭和48年の「石油ショック」以降しばらく景気停滞が続いた。しかし、経済も安定成長<sup>1)</sup>に移行し、昭和58年によりやう景気回復となり、持続的に拡大していった。

この時代の生活意識を捉えるには、その生活の基本である「家庭」という土台が、どのように時代の変化に対応してきたかということから知る必要がある。そこで、その家庭と密接な関わりをもつ主婦たちが、主に読んでいると思われる雑誌を媒体として本研究を試みた。

雑誌は世相、すなわち世の中が求めているものを反映しており、当時の人々の求めていた「こと」「もの」が推測できると思われる。主婦たちが読んでいる雑誌を通して家庭生活の実際性がうかがえ、一方、出版社も生活上必要としている内容を「生活情報誌」として提供していることから、出版社側からみても、その当時の主婦、すなわち家庭が求めていたものを表していることになるのではないだろうか。

以上から、雑誌は生活行動を見る上でのバロメーターの役割を十分成し得ていると考えた。中でも、特に婦人雑誌は近年休刊が相次いでいるが、それこそが生活の捉え方が変化していることを示すことと言えよう。その雑誌の変化に着目し、今回は生活の中で「子供服」が、どのように関心が持たれているかという視点から、昭和後半期の家庭生活の意識変化をみた。

但し、ここでいう「子供服」とは、主に乳幼児服を中心として考えることにする。

尚、近年の女性雑誌の研究は、井上氏<sup>2)</sup>、岡氏<sup>3)</sup>、諸橋氏<sup>4)</sup>、北澤氏<sup>5)</sup>ら、数多くあるが、女性論、ジャーナリズム、メディアについての考察である。また、家庭生活に視点を当てたものとして稲葉氏<sup>6)</sup>のがある。

## 2. 分析資料とその方法

雑誌分析は、雑誌の目次にある項目の内容分析を主とした。つまり、出版社は時代に即したものを出版しているという視点より、1冊の雑誌の年度ごとの内容の移り変わりからミクロ的に家庭生活の関心の流れを探る。

対象とした時代は、昭和後半期の昭和35年から平成元年の30年間とした。

### [1] 調査対象雑誌とその選択理由

分析をするにあたり、家庭生活の変遷がわかるよう発行が長期に亘る雑誌であることと、大衆に読まれているという点で、発行部数が多い『主婦の友』（主婦の友社・大正6年創刊）と『婦人倶楽部』（講談社・大正9年創刊）を選択した。

また、今回は子供服の「動き」に焦点を当てているため、主婦が読む子供を対象とした「育児生活情報誌」という面から、『わたしの赤ちゃん』（主婦の友社・昭和48年創刊）と『ベビーエイジ』（婦人生活社・昭和44年創刊）を比較資料として用いた。両誌とも育児情報誌の中では長く続き、発行部数も多い。

### [2] 分析方法

#### (1) 雑誌掲載記事及び付録項目件数分析

生活の流れの全体を大きくみるために、昭和35、40、45、50、55、60、平成元年発行の雑誌・①～④の目次にある記事項目数を、タイトル別に年間集計する。また付録も同様に行う。(表1)

表1 本研究で用いる雑誌名と調査年

		昭和						平成
雑誌名	年	35	40	45	50	55	60	元
		(1960)	(1965)	(1970)	(1975)	(1980)	(1985)	(1989)
①主婦の友（主婦の友社）		●	●	●	●	●	●	●
②婦人倶楽部（講談社）		●	●	●	●	●	●	
③わたしの赤ちゃん（主婦の友社）					●	●	●	●
④ベビーエイジ（婦人生活社）					●	●	●	●

(注) (1)●印のあるところが使用年

(2)『ベビーエイジ』の昭和50年は、資料なしのため昭和51年を用いる

(3) 4 雑誌とも御石川文化事業団・お茶の水図書館蔵

集計に当たり、「子供服飾」記事のカウンターの仕方は、雑誌本体では子供のみに関するもの、付録では子供のみを対象としたものの他に、例えば「ミセスとファミリーのかたん手あみ集」と、家族全体を扱ったものの中に、子供に関するものが入っていた場合もすべてカウントした。

## (2) 項目内容分析

衣服に関する見出しの付け方や記事名について考察する。

## 3. 対象雑誌の紹介

『雑誌新聞総かたろぐ』（メディア・リサーチセンター<sup>7)</sup>より、(1)創刊年、(2)読者層、(3)編集方針内容、について以下列記する。

### ① 『主婦の友』（主婦の友社）

(1)大正6年、(2)既婚婦人94.2%、(3)充実した暮らしをおくっているベテランミセスを対象としたハイクオリティな生活誌。自分自身の生き方、および家族や家庭を大切にする主婦のためのおもしろくて役に立つホームマネージメント誌。

### ② 『婦人倶楽部』（講談社）

(1)大正9年, (2)既婚女性97.9% 20歳代62.6% 30歳代30.7% 40歳代5.2%, (3)主婦が家庭生活を取仕切るために, 必要な知識と情報を満載した総合婦人誌。衣, 食, 住, 育児のありようを生活知識から商品情報に至るまで様々な角度から捉える。但し, 昭和63年に休刊となる。

### ③ 『わたしの赤ちゃん』(主婦の友社)

(1)昭和48年, (2)主婦85% 勤め人15% 25~29歳65% 24歳まで25%, (3)0~3才児を持つお母さんたちが安心して頼れる育児誌。食事, 健康などについて核家族のヤングママへのアドバイザーとしての役割をする。

### ④ 『ベビーエイジ』(婦人生活社)

(1)昭和44年, (2)20~24歳10.1% 25~29歳61.3%, (3)日本で最初に創刊された育児としつけの専門誌。赤ちゃんの心と体を大切に考え, ヤングママとパパに赤ちゃんのための正確な情報を提供する生活情報誌。

## 4. 項目件数と内容からみた衣生活行動と子供服の関係

### [1] 婦人雑誌について

(1)『主婦の友』と『婦人倶楽部』の衣生活記事と子供服

両誌とも、雑誌本体(以下「本誌」とする)と付録からなっている。

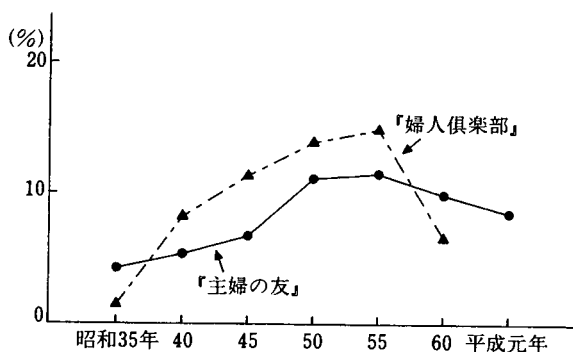


図1 本誌服飾記事項目数率(対本誌項目総数)

全体的傾向として、  
本紙の経常的記事項目総数に対する服飾の記事項目数(婦人・子供等服飾に関するすべての記事数)の割合は、昭和35年からの増加が昭和55年をピークに減少する(図1)。

また、服飾の記事項

目総数の中で子供の服飾に関して、『主婦の友』は昭和60年までの増加が平成元年に、『婦人倶楽部』は昭和60年にゼロとなる(図2)。

付録については、付録全体に対して服飾に関するものは、昭和50年以前は60%以上を占めていたが、それ以降は減少の一途であり(図3)、子供の服飾については、『主婦の友』は昭和55年以降、『婦人倶楽部』は昭和50年以降著しく減少する(図4)。

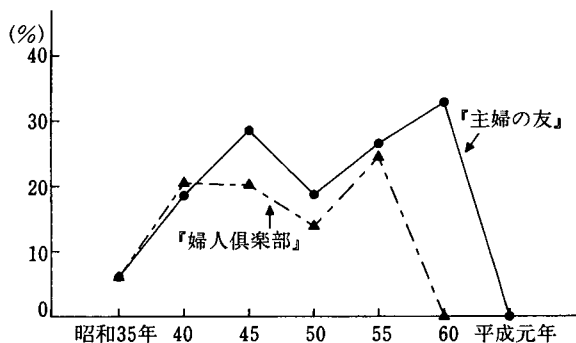


図2 本誌子供服飾記事項目数率  
(対本誌服飾記事項目数)

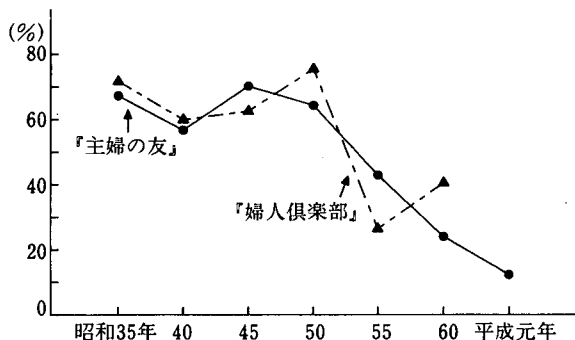


図3 付録服飾項目数率(対付録項目総数)

表2は、『主婦の友』の本誌と付録にある、子供の服飾に関する項目のタイトルを年度別にまとめたものである。

昭和35年は子供について取り扱ったものは極僅かである。40年になって、洋裁をテーマとしたものが出現し、45年にはさらに洋裁用型紙が毎月のように付録についている。しかし、50年になると洋裁も依然として存在するが、その外、付録に編み物に関するものが増加し、子供関係にもその傾向がみられる。55年では、本誌に連載記事などの定期的なものはあるが、実生活に直結したものより「マリーヌルック」「コーディネート」といった言葉から受けるように、ファッション的の傾向が強くなっているようにうかがえ、「即、

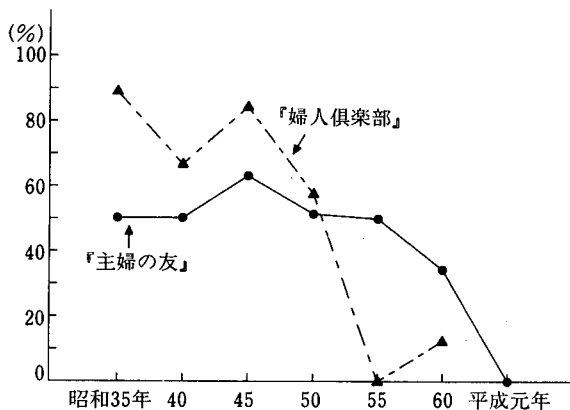


図4 付録子供服飾項目数率(对付録服飾項目数)

生活のため」といった衣生活での切迫感が感じられないものになってきている。また、服飾全体（婦人，その他すべてに関して）も50年の付録に多かった編み物が半分の量になり、子供のものは見られなくなった。60年になると、本誌には同じ

く連載記事はあるが、洋裁といっても手軽にできる紹介程度となっており、付録も冬の編み物ぐらいである。平成元年は、全く子供関係のものはない。

結局、付録の内容は昭和45～50年頃、ホームメイド用の型紙、編み物の仕方が中心で、家庭における「自家製作」の情報は、婦人雑誌から得ていたようである。

以上から昭和50年以降、本誌の中に話題としての服飾はあるものの、付録は減少し、その内容も編み物程度に留まっている。本格的な洋裁のためのものは姿を消してしまうこと、また、本誌の中で用いられた目次の分類項目名が、35年～60年まで「服飾」だったものが平成元年には「ファッション」と変わったことなどから（『婦人倶楽部』では「服飾」は35～50年、「ファッション」は55年から）、本誌、付録合わせて考えると、昭和50～55年までは増加傾向だった服飾関係が、その後、生活の中で「衣」に対する視点が変わり、婦人雑誌内で別な捉え方をされるようになったようである。

つまり、子供の服飾も話題として扱いは多くなっても、自家製作という視点からではなく、単に子供ファッション情報を知りたいという観点からのように思われる。よって平成元年には、その情報が他の形へ移行したと考えられる。

表2 『主婦の友』における子供服に関するタイトル一覧表 (本誌・付録)

	本 誌	付 録
昭和 35 年	<div>目次分類項目名</div> <div>工作・手芸・和洋裁・服飾・おしゃれ</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 童話手芸で生かしたかわいい子供服(4)</li> <li>● 少女服の新型スタイル(5)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 春の子供服と通勤着(4)</li> <li>● 布地と家庭洋裁 夏のスタイルブック(6)</li> <li>● 子供簡単服の実物大型紙93種(7)</li> </ul>
40 年	<div>洋裁・手芸・おしゃれ</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● お正月の子供服(1)</li> <li>● リフォームでかわいい子ども服を(2)</li> <li>● 実物大型紙つき赤ちゃん服と幼児服(4)</li> <li>● 母と子のすてきなブラウス(5)</li> <li>● 子どものゆかたを型紙とミシンで(6)</li> <li>● 夏の子供服(6)</li> <li>● 子どもミセス スカートとセーター(9)</li> <li>● 通園・通学の子ども既製服(10)</li> <li>● 七五三に外出に かわいい子ども服(11)</li> <li>● 婦人・子どもスラックスの着方・作り方・買い方(11)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ミセスと子どもの春の服 子ども服の実物大型紙セット(3)</li> <li>● 赤ちゃん子ども服の型紙セット(7)</li> <li>● 安くなった流行布地の簡単服(8)</li> <li>● ファミリー型紙57種(8)</li> </ul>
45 年	<div>服飾・手芸</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 成長に合わせた衣服計画(1)</li> <li>● 実物大型紙つき赤ちゃん服(1)</li> <li>● &lt;ベビースーツ、パジャマ、よだれかけ&gt;</li> <li>● 森英恵のおしゃれな子ども服(1)</li> <li>● いたずらっ子の遊び着がいっぱい(2)</li> <li>● 洋服もあみ物も作れる赤ちゃんの実物大型紙(2)</li> <li>● 洋服に合わせた春の子どもニット(3)</li> <li>● 実物大型紙つき夏までにまにあう子どもの遊び着(4)</li> <li>● 実物大型紙赤ちゃんのスモックとロンパース(4)</li> <li>● 赤ちゃんの帽子は型紙で(5)</li> <li>● 簡易洋裁カード 夏の子ども服(6)</li> <li>● やさしく作れる赤ちゃんのあみ物と洋服(9)</li> <li>● 子どものジャケットファッション(9)</li> <li>● 七五三のおしゃれな子ども服(11)</li> <li>● リフォーム子ども服(11)</li> <li>● クリスマス・お正月の子ども服とあみ物(12)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 婦人子ども外出着とホームウェア(3)</li> <li>● 赤ちゃん・幼児・ミセスのふだん着の実物大型紙 170種と原型(3)</li> <li>● 婦人子どもおしゃれなふだん着 208種(5)</li> <li>● 全部実物大型紙つき ミセスと子どものエプロン71種(5)</li> <li>● 赤ちゃんの夏服と実物大型紙50種(6)</li> <li>● 年齢別サイズ別 赤ちゃん・子ども・ミセス 簡単服の実物大型紙 115種(7)</li> <li>● 全部実物大型紙つき 真夏子ども遊び着(8)</li> <li>● ミニからマキシまで 婦人子ども流行スカートと型紙71種(9)</li> <li>● 婦人・子ども服と編み物 270種(10)</li> <li>● 全部実物大型紙つき 家中のパジャマ・ネグリジェ・ガウン(10)</li> <li>● 赤ちゃんのあみ物カード(10)</li> <li>● 三つの実物大型紙(10) <ul style="list-style-type: none"> <li>① 婦人子どものパントロン ② 子どものブラウス・ズボン・スカート</li> <li>③ 家中のパジャマ・ネグリジェ・ガウン</li> </ul> </li> </ul>

50 年	<p><b>服飾・手芸</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●おめでとう！お正月の子ども服(1)</li> <li>●流行選れのミッドレスからかわいいリフォーム子ども服を(2)</li> <li>●手作り男女児サロップ(3)</li> <li>●Yシャツからリフォーム かわいい赤ちゃん・子ども服(5)</li> <li>●あしたは海！一晩でぬえる子どもの水着(8)</li> <li>●発表会、およばれにボクとワタシとフォーマルウェア(9)</li> <li>●カード式プレゼントにもよい赤ちゃんのかわいい手あみ(9)</li> <li>●ボクとワタシのすてきな七五三の服(11)</li> <li>●直線あみの子どもニット(12)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●婦人・子ども・赤ちゃん・男子・小物 春の流行手あみ全集(2)</li> <li>●婦人・子ども 春の流行スカート実物大型紙(3)</li> <li>●婦人・子ども 春の型紙洋裁とあみ物全集(4)</li> <li>●半日でぬえるかわいい流行デザイン30種(5)</li> <li>●子どものスカート、ズボン実物大型紙</li> <li>●夏の婦人・子ども服と型紙洋裁(6)</li> <li>●赤ちゃん・子ども服の実物大型紙(6)</li> <li>●婦人・子ども・赤ちゃん・ハズ・お結まじり・マタニティ型紙で作る家の夏服全集(7)</li> <li>●婦人・子ども・赤ちゃん・ティーン・しり おしゃれな簡単服と型紙全集(8)</li> <li>●婦人・子ども・赤ちゃん・男子 冬の手あみ(セーター、ウェスト、カーディガン)(11)</li> <li>●母と子の流行スカート38選(11)</li> </ul>
	[9]	[10]
55 年	<p><b>服飾・手芸</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●毎日着る簡単スカートとパンツ(4)</li> <li>●さわやかルックの半そで子ども服(4)</li> <li>●Tシャツ大好き！キャラクター大好き！(5)</li> <li>●子どものゆかた、じんべいをぬってあげましょう(6)</li> <li>●潮風が待ち遠しい！マリンルックの子ども服(6)</li> <li>●もうすぐ夏休み！子ども水着・じんべい・サンドレス(7)</li> <li>●北原明子のおしゃれなリフォーム子ども服(9)</li> <li>●コーディネートがきめ手！秋の子ども服(9)</li> <li>●毎日着がえはは既製服がらばん！ スポーティーカジュアルの子ども服(10)</li> <li>●あらたまった気持ちをシンプルな装いにあらわして(11)</li> <li>●七五三のフォーマルウェア子ども服</li> <li>●マフコート、マントからリフォーム 赤ちゃん・幼児の暖かいマント(11)</li> <li>●わが子の「七五三」・装いと祝い方(11)</li> <li>●母と子のあみ込みニットと小物特集(11)</li> <li>●かわいいワンポイント図案つき 簡単あみ地の子どもニット(11)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●赤ちゃん子どものラブリニット(2)</li> <li>●実物大ニット型紙(2)</li> <li>●ミセスと子ども春の一日洋裁(3)</li> <li>●かわいい通園、通学バックと袋物67種(3)</li> <li>●実物大型紙6面セット(内2面)(5)</li> <li>①子どものスカートとパンツ ②赤ちゃん服21〜4オンスモック、エプロントス</li> <li>●ミセス・子ども・赤ちゃん・ティーン・しりサイズ・40代50代・マタニティ・おばあさま</li> <li>ワンタッチ型紙で作る夏服全集(7)</li> <li>●夏服のらくらくワンタッチ型紙8面(内2面)(7)</li> <li>①2〜9オボレロフスキサンドレスとワンピース</li> <li>②2〜9オパンツ、スカートと赤ちゃん服</li> </ul>
	[14]	[7]
60 年	<p><b>服飾・おしゃれ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●どれを選ぶ チビッツファッションお正月風(1)</li> <li>●母と子の伝統あみのセーター(1)</li> <li>●人気ブランドの子ども服(1)</li> <li>●新一年生のワードローブ(3)</li> <li>●松尾紀子の母と子の生活 家事が楽しいワークウェア(3)</li> <li>● " マドラスチェックのさわやかシャツ(4)</li> <li>● " 楽しくておしゃれな初夏のナイティー(5)</li> <li>● " やさいいからだれで制作します！組みあわせ自由のプリント服(6)</li> <li>●SHOP鈴木俊子さんの赤ちゃん・子ども服アティック(6)</li> <li>●松尾紀子と母と子の生活 夏がうれい！おそなが楽しい！手作りゾートファッション(7)</li> <li>● " 秋に便利、厚手シャツとパンツ(9)</li> <li>● " 秋から冬へ、簡単スカート(10)</li> <li>● " 寒なる前に手作しな！組み合わせ自由のジャケット(11)</li> <li>●鈴木俊子さん(子供デザイナー)の思い出をあったかりフォーム(11)</li> <li>●松尾紀子の母と子の生活 冬の夜のくつろぎガウン(12)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●秋一番！ミセスと子どもの手あみセーター集(9)</li> <li>●ミセスとファミリーのかんたん手あみ集(11)</li> <li>●ミセス&amp;子ども セーターと冬の小物(12)</li> </ul>
	[15]	[3]
平成 元年	<p><b>ファッション</b> (子供に関するものは全くない)</p>	
	[0]	[0]

注) 1. タイトル後の ( ) の数字は月号

2. 本誌・付録各年の右下の [ ] は、その欄にある年間項目数の合計



## (2) その他の項目について

対象二誌のその他の項目については、本誌内容の昭和35～50年頃まで、服飾、料理、住宅、子供、健康など、主婦を取巻く「こと」「もの」についてのテーマが主流であった。昭和55年頃から「生き方」「再就職」と自分自身について見つめ直すようなものがでてきている。また、経済面からも、昭和55年以前は、家計簿や家計の遣り繰り程度だったものが、昭和55年以降、証券貯蓄やいかに貯蓄を増やすかなどの財テク的な性格へと移り変わってきている。そして、料理にダイエットに関するものが扱われだし、同時に美容関係に関するものも目につきだした。

付録においても、同様なことがいえる。昭和35～50年までは、ほとんど服飾と料理が主流であったものが、昭和55年以降、細分化され、健康、経済、美容なども度々取り上げられている。服飾と料理の二大柱が中心だった時代から、家庭内でのあらゆる「行為」の比重が細分化し、均等化されてきたのではないだろうか。

また、この『主婦の友』『婦人倶楽部』そのものの本誌項目記事総数が年々減少している。婦人雑誌の性格やテーマとしてきたことと、読者側から求められてきたものが30年間に変化し、かつてのように1冊の中に内容を盛りだくさん扱うより、テーマを絞って内容を深める量から質の時代になってきたと言えるよう。

## [2] 育児情報雑誌について

### (1) 『わたしの赤ちゃん』と『ベビーエイジ』

この二誌は、いずれも婦人雑誌を扱う出版社発行のもので、『わたしの赤ちゃん』は先に挙げた『主婦の友』と、『ベビーエイジ』は『婦人生活』（昭和61年に休刊）と同じ出版社である。両誌とも婦人雑誌同様、本誌と付録からなっている。今回は、子供の「衣服」「食事」「保健」「その他（両親、インテリア、読者広場など）」の4つに分けて比較考察した。

両誌の昭和50～平成元年までの内容構成比を、本誌と付録合わせて考える

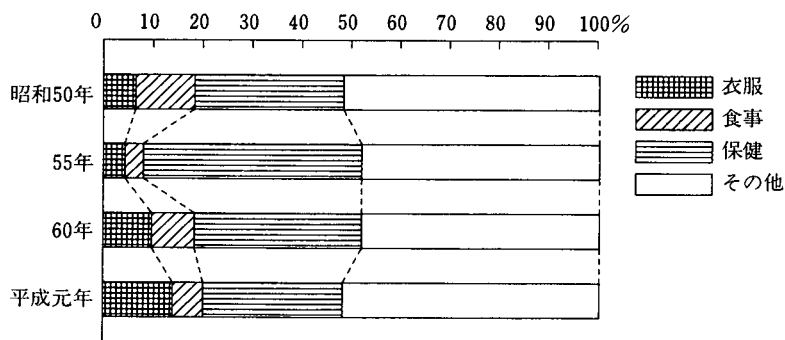


図5 『わたしの赤ちゃん』年別本誌内容構成比

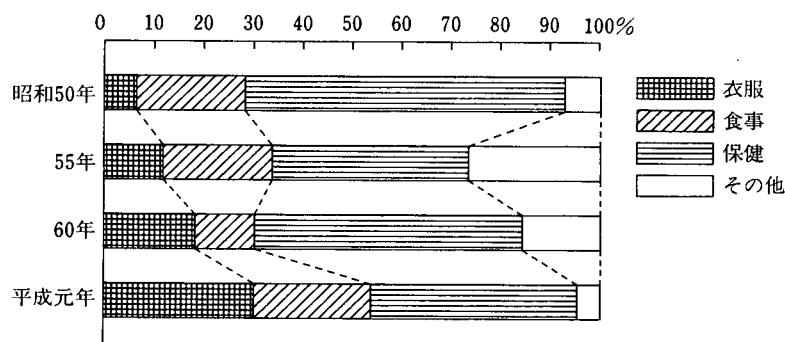


図6 『わたしの赤ちゃん』年別付録内容構成比

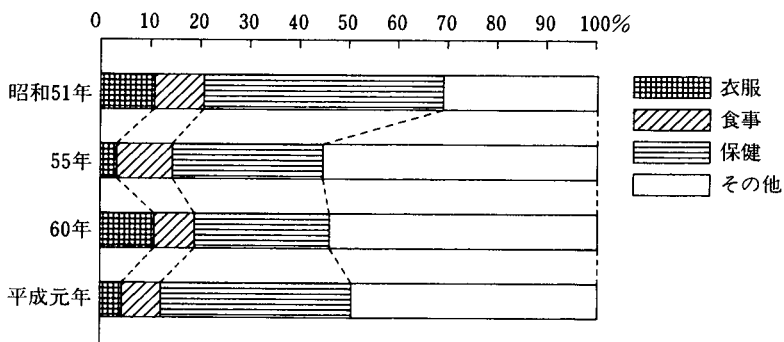


図7 『ベビーエイジ』年別本誌内容構成比

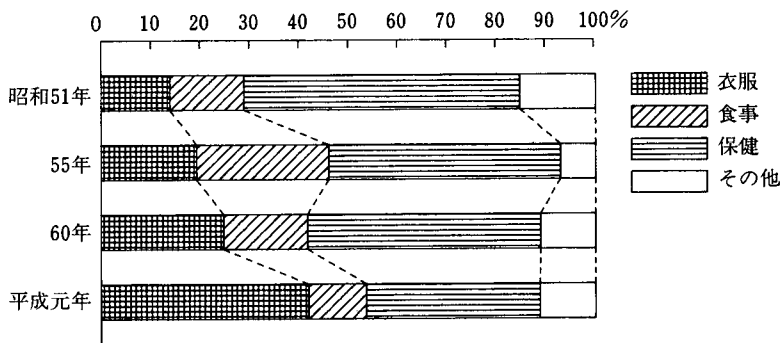


図8 『ベビーエイジ』年別付録内容構成比

と(図5～図8), 昭和50年頃は保健関係が育児雑誌の中心で, 次に食事関係がその3分の1程度の情報量であった。しかし, 平成元年になると衣服関係の情報が増加が著しい。

特に, 衣服関係と保健関係を比較すると, 昭和50年に, 本誌は1:4, 付録では1:9と, 圧倒的に保健関係が主流であったが, 昭和60年は本誌, 付録とも1:3となり, 平成元年には本誌1:2, 付録2:3である。

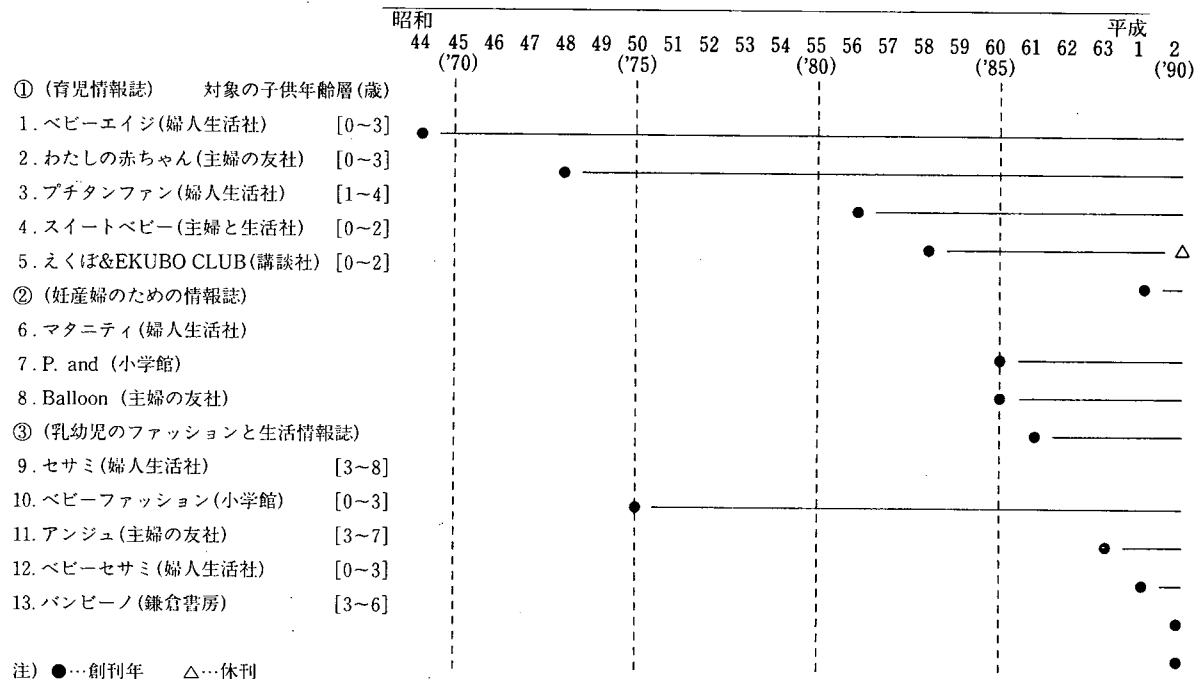
衣服関係の内容は, 昭和50年, 本誌の中に作り方などが載っており, 付録として独立してあるものはほとんどなく, 本誌内で納まっていた。ところが, 平成元年には, それが付録という形で本誌から独立した形をとっている。これは, 乳幼児の生活の基本は健康, 発育だと思われたが, 昭和末期は「それ以外」の存在の方にもウェイトが置かれているということになる。子供の生活の捉え方が実質的なものだけでなく, 広い領域に及んできたのではないだろうか。

## (2) その他の育児情報雑誌との関連

婦人雑誌の子供服関係のものが育児情報誌に移行し, さらにその育児情報誌の中においても衣服に関するものは増加傾向であった。この二誌と他の育児関連雑誌との繋がりから, さらに子供服の動きをみてみよう。

表3は, 平成2年現在発行されている育児に関連する雑誌について, 婦人雑誌を発行している出版社から抜き出し, 各内容ごとに分類して創刊年を示

表3 育児関連雑誌の創刊年一覧



したものである。

分類は①「育児情報誌」、②「妊産婦のための情報誌」、③「乳幼児のファッションと生活情報誌」とした。

①「育児情報誌」では、『ベビーエイジ』と同じ社から昭和56年に『プチタンファン』が創刊された。前者は0～3歳の赤ちゃんの成長に携わる内容を、後者は1～4歳の幼稚園に入るまでの幼児の家庭教育に比重をおいている。同じ出版社で対象年齢も重複しているにも拘らず、微妙にテーマが異なっている。それだけ雑誌の細分化は進んでいることがわかる。

次に、『ベビーエイジ』の昭和60年まで、また『わたしの赤ちゃん』の昭和55年までは、妊産婦（衣服の話題を含む）関係が多少あったが、それ以降はほとんど見られなくなった。②「妊産婦のための情報誌」でわかるように、ちょうど昭和60年頃相次いで妊産婦用の雑誌が出現している。つまり、従来、育児情報誌のなかで「産前」「産後」まとめて扱われていたものが、昭和55～60年を過渡期として分離し、「産前」を独立させたと思われる。

そして、③「乳幼児のファッションと生活情報誌」にみられるように、昭和63年から平成2年の間、乳幼児のファッションを中心とした生活情報誌が4誌創刊された。但し、『セサミ』は先の4誌と異なり、昭和50年に創刊されている。その頃は、婦人雑誌によりやく変化が見られ出した時である。当初は半分以上が売れ残ったというが、<sup>8)</sup>「グラフィックな紙面構成の子供のファッションと生活の都市型情報誌」という編集目的から、毎日の家庭生活に直結したものというより、子供服をヴィジュアル化して楽しむという方向に少なくとも意識は向き始めたことがわかる。

その後も、『セサミ』から『ベビーセサミ』が作られた。これは30代の母親からベビー用にもとの要望があったからだという。<sup>9)</sup>つまり子供服のファッション化は確実に浸透していることがうかがえる。

以上から子供服の情報は、婦人雑誌から育児情報誌に移行し、さらに専門の子供ファッション雑誌まで至ったことになる。それは乳幼児の生活において、現在では完全に「衣」は従来の「着る」ことだけの意味はなくなってきた

たことの現れと考えられる。

## 5. 婦人雑誌からみた30年間の衣生活と生活状況との関わり

### 〔1〕衣生活の「行為」と「意識」の変化

今まで4冊の雑誌の年度別目次内容と、育児関連雑誌13誌の創刊状況の変遷を辿った。

昭和30年代に繊維産業も機械のオートメーション化が進められ、量産が可能になりつつあった。そして婦人子供服の小売業の数が昭和35～40年頃にかけておよそ2倍になり、年間販売額も昭和35年から37年の2年間で123.2%<sup>10)</sup>の伸び率を示している。

既製服化が進んで行く中、一方で本調査のようにホームメイド関係も増加の一途である。両者を考え合わせると、昭和35年頃は既製服はいまだ初期段階で、婦人雑誌では自家製作を中心とした衣服を取り上げていた。衣服への意識は生活の一部として、生活と直結した実益的なものであった。

昭和40年代前半は、30年代の現状維持とみられ、ホームメイド専門雑誌も相次いで創刊されている。しかし、後半になると婦人雑誌では編み物程度になり、本格的な洋裁関係などはみられなくなった。これは、今までの生活に直結したホームメイドは姿を消したということになる。そして別な形で単発物やシリーズ物のホームメイド雑誌が発行されていることは、昭和50年頃は既製服が主流となり、ホームメイドは一種の趣味や楽しみの方に比重が大きくなったと思われる。つまり、衣生活でのホームメイドは、全くしなくなった者といくら既製服があっても楽しみとして、もっと専門的に行う者の二極化傾向になったとみえる。

昭和55年頃になると、婦人雑誌は「服飾」から「ファッション」に目次名を変えている。そしてホームメイド関係はほとんどみられず、あっても手軽にできる程度のものである。また、昭和60年以降、婦人雑誌が相次いで休刊し、従前の婦人雑誌が現代の生活に適応しなくなっている状況がみられる。

「衣」は実用性の強いものより現代の多様性、情報性を反映したようにヴィジュアル化し、現代の主婦の「楽しむ衣」の感覚に合わせるべく変化している様子がうかがえる。子供服関係のものは著しく変化をしており、特に乳幼児の変化は顕著である。婦人雑誌内で、昭和55年までは服飾全体と同じ傾向を示すが、昭和55年以降になると婦人雑誌には姿をみせず、代わりに育児情報誌の中の衣服関係の内容が増加しだしている。

そして昭和62年以降は、毎年のように乳幼児の服飾・生活情報誌が創刊された。もし、衣服を体を包囲する着るものだけのものとすれば、これらのような子供ファッション雑誌など必要ないはずである。現代の衣生活に対する欲求は、マスロー（A.H. Maslow）の欲求段階理論<sup>11)</sup>の第一段階の「生理的欲求」の「生活実用」から、第四、第五段階の「心理的欲求」「自己実現欲求」と思われる「趣味・楽しみ」に、明らかにこの30年間で変化した。

この変化の原因について、生活状況との関わりから考えてみたい。

## [2] 生活状況の実際

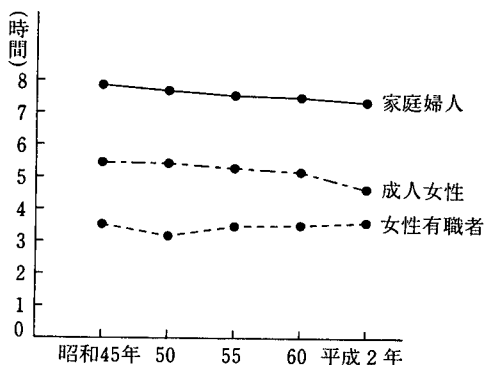
### (1) 女性の生活時間との関係

女性の近年のライフスタイルの変化を示す指標として、「生活時間」があげられる。

図9～図11は、日本放送協会が5年毎実施している「国民生活時間調査」から、「家事」行為者平均時間及び「家事」項目にある「縫い物・編み物」の行為者率（全員の中で、1日の間に1回以上その行動を行った人の率）と行為者平均時間をまとめたものである。

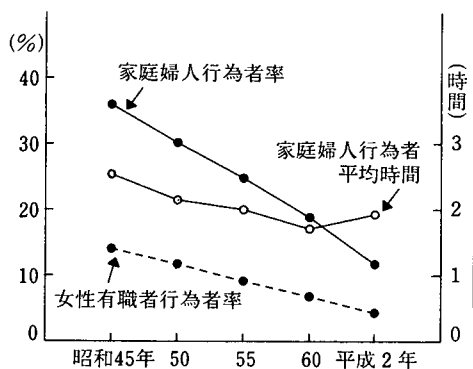
「家事」時間は、全般に昭和45年調査より減少している。家庭婦人（専業主婦）と女性有職者を比較すると、どの年も女性有職者は家庭婦人の半分も家事時間がない。（図9）

「縫い物・編み物」については、家庭婦人は有職者より家事時間があるためか、行為者率は高い。しかし、両者ともその率は年々減少している。また行為時間そのものは、20年間でやや減少している程度であることから、「縫



資料：NHK世論調査部編『図説 日本人の生活時間』より作成

図9 「家事」時間の変化 (平日・全員平均時間)



資料：NHK世論調査部編『図説 日本人の生活時間』より作成

図10 「縫い物・編み物」行為者率及び行為者平均時間 (平日)

い物・編み物」を実際に  
する物にとっては、その  
時間的ウェイトは変わら  
ないことになる。(図10)

但し、図12に示すよう  
に、「15歳以上人口に占  
める家事専業者（専業主  
婦）の割合」は、昭和50  
年以降減少するが、逆に  
「15歳以上人口に占める  
雇用者の割合」は増加し、  
昭和60年に家事専業者と  
の比が逆転している。ま  
た、15歳以上人口に占め  
る女子雇用者数を年齢階  
級別に10年ごとにみると  
(図13)、ちょうど乳幼  
児をもっていると思われ  
る20歳代後半から30歳代  
も年々、雇用者の割合が  
高くなっている。

以上から、家庭婦人そ  
のものが減少していることになるので、実際に「縫い物・編み物」をしている  
人数は、全体に対して非常に僅かと言えよう。

また、年齢別で見ても、どの世代も昭和50年にはその世代の20%前後いた  
行為者も平成2年には10%以下となり、特に20～40歳代は、ほとんど「縫い  
物・編み物」はなされていないことになる。(図11)

この「縫い物・編み物」の「生活時間」の変化は、婦人雑誌でみた昭和50



年頃からの自家製作を扱っていたのが減少した時期と一致している。

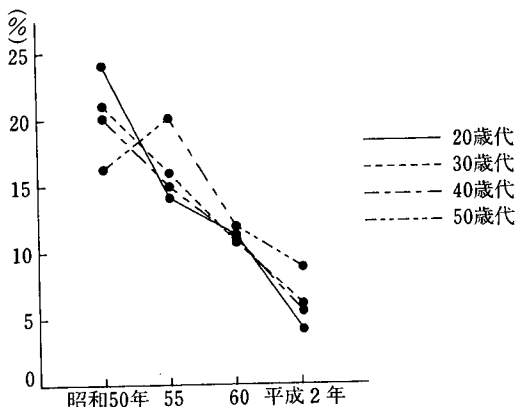
## (2) 衣服生産と消費について

図14は、乳幼児服の製造出荷金額及び数量の変遷である。昭和53年までは、出荷金額、数量ともに増加も著しいが、それ以後は下降となる。しかし、金額は数量より減少率が低く、つまり単価が高くなっていることになる。

次に、図15は『家計調査年報』による、子供服の年間支出金額と購入数量である。調査方法が、昭和54年以前と以降では異なっているが、子供服全体の傾向として、支出

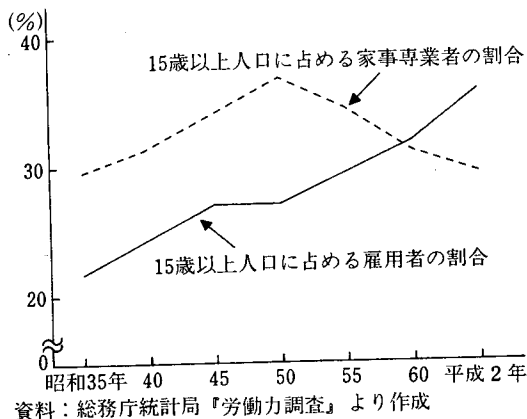
金額は昭和50年前半まで急増し、55年以降横ばいが続く。購入数量でも、昭和50年前半までは増加となるが昭和55年以降は減少となる。

さらに『全国消費実態調査報告書』により、実際の各世帯の子供の数別に、1ヵ月間の支出金額、購入数量、一着当たりの平均価格の関係を「子供1人（3～6歳未就学児）」「子供2人（長子が3～6歳未就学児）」「子供3人



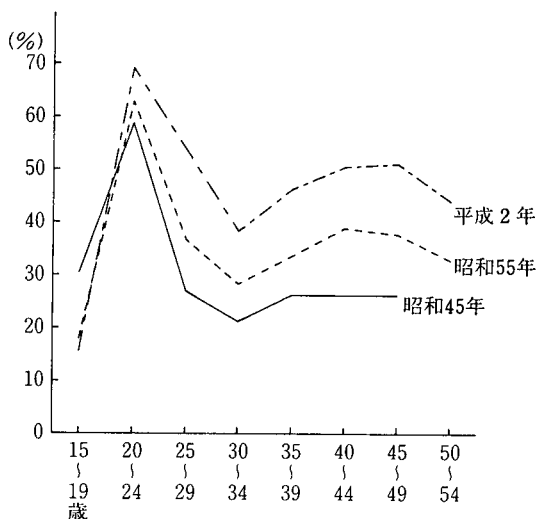
資料：NHK世論調査部編『図説 日本人の生活時間』より作成

図11 女性年齢別「縫い物・編み物」行為者率（平日）



資料：総務庁統計局『労働力調査』より作成

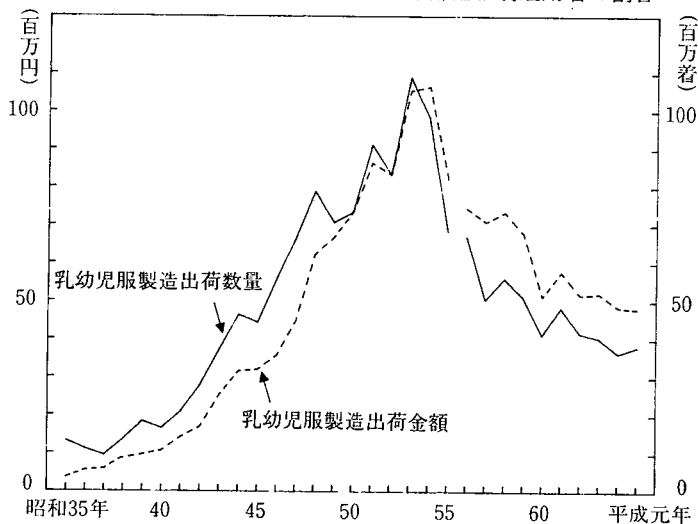
図12 女子15歳以上人口に占める雇用者及び家事専門者の割合



注) 昭和45年の「40～44歳」「45～49歳」「50～54歳」は、「40～54歳」をまとめた割合である。

資料：総務庁統計局『労働力調査』より作成

図13 女子15歳以上人口に占める年齢階級別雇用者の割合

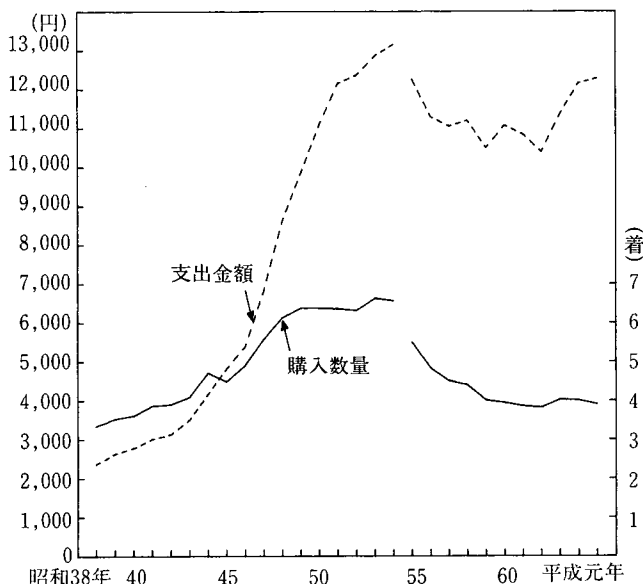


注) 昭和56年調査より従業員数4人以上の事業所の集計のため

昭和55年以前と繋がらない。

資料：通産省『工業統計表』より作成

図14 乳幼児服製造出荷金額及び数量



注) 昭和55年より集計方法が変更となるため昭和54年以前と繋がらない。  
 資料：総務庁統計局『家計調査年報』より作成

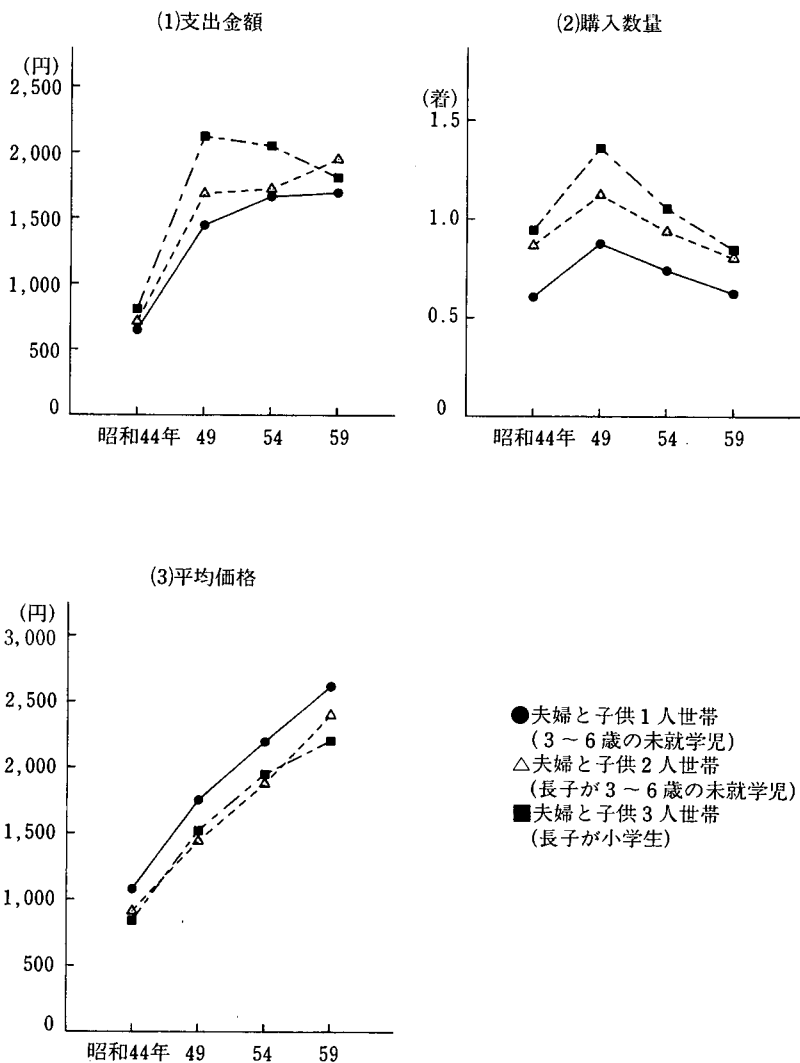
図15 1世帯当たり年間の子供服支出金額及び購入数量(全世帯)

(長子が小学生)」の3ケースについて比較した。(図16)

各年代に共通して子供の数が多くほど、合計の支出金額と購入数量が多くなるが、一着当たりの価格は一人子のほうが常に高額である。

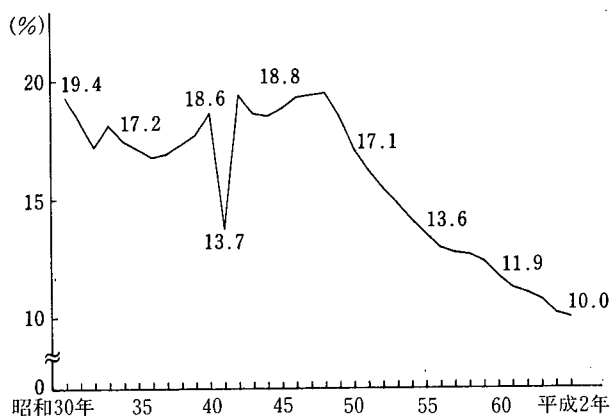
年代別では、どの世帯も購入数量は昭和49年調査以降減少するが、支出金額は購入数量が減少する割には変化がなく、『家計調査年報』と同様の傾向である。

図17の「出生率の推移」を参照すると、子供の数は昭和46～49年頃のベビーブームを境に年々減少している。その頃生まれてきた子供たちが子供服を着始めるのは、3～4年遅れて昭和50年前半期となる。このことは、昭和50年以降に生まれた子供たちが減少すれば、子供服の購入数量にかかわることになり、昭和54年以降の子供服の購入数量減少の結果とも一致する。子供が少ない分、一人の子に十分被服費がかけられることになり、子供服の「高級化」



資料：総務庁統計局『全国消費実態調査報告書』より作成

図16 子供構成別一世帯当たり1か月間の子供服の支出金額、購入数量及び平均価格（核世帯・勤労者世帯）



注) 昭和48年以降は沖縄県を含む。  
資料：厚生省『人口動態統計』より作成

図17 出生率の推移（人口1,000人対）

「享楽化」を反映していると考えられる。

子供服の生産側、消費者側いずれも、子供の出生率の変化に合わせて、昭和50～55年に転換期を迎え、また、これは婦人雑誌の変化の時と同じくしている。

### [3] 子供服を通してみられる生活意識変化

前節 [1] [2] で示した、婦人雑誌で昭和55年以降にみられた内容変化と、生活の実際から、「生活実用から楽しみへ」という衣生活の価値変化は、生活時間の変化、就労、子供数の減少に関わる経済状況など多様な要因と関わっていることがわかる。

ところで、現在、幼稚園児を持つ母親の7割が何か子供に衣服を作ったことがあり、作ったことのある母親の内8割<sup>12)</sup>がその理由に「子供に何か着せてみたいから」という答えをあげている調査結果がある。親が「子供のために作りたい」という気持ちは、親自身が「作ってみたい」、すなわち「自分の作りたい思いのために作る」ということに成り得る。つまり現在の「作る」

意味は、親が子供に何か作ることによって自分の中の自己充足が図れることのように思われる。

この現状を踏まえ、婦人雑誌からみた30年間の家庭生活をまとめると、昭和30～40年代は衣食が中心であったのが、昭和50年後半にはいと生活内容の多様化で、衣食だけではすまなくなってきた。生活の各項目が細分化され、その各「行為」への関心が均質化しているようである。衣服もあれば、財テクもあるというように生活の中に様々な「場」が存在し、その一つ一つが、生活価値観の多様化してきた現代の生活意識の基本となっている。

今後は、益々この社会の動向を受け、経済性を基盤とした上で、十分既製服でもことが足りるのを、あえて「子供のために作りたい」と思うような、自分の抱く人生観や価値観に沿った生活を追求する時代になっていくと考えられる。

## 6. 終わりに

雑誌は、その時代とその社会の姿に深く結びついている。本研究では、家庭生活と関係のある雑誌を用いて子供服の雑誌内での取り上げ方を調査し、高度成長期から昭和の終わりまでの生活の意識について検討した。

昭和35～平成元年までの30年間、雑誌全体に対して服飾関連記事の割合は昭和55年まで増加の一途であるが、その後はやや減少する。付録も45～50年頃を境に減少している。本誌の子供服に関しては、55年頃まで服飾関連全体と同様に増加するが、60年～平成元年にかけ、ほとんど扱われず、付録も45年以降は減少する。内容については、45年頃まで製作に関するものが多く、その後製作は編み物程度に留まり、ファッション情動的な記事が多くなっている。従って、45年頃まで既製服化の初期段階ということからみても、生活に役立つ実益的なものであったが、以後、製作することが趣味や楽しみに変わってきたように見受けられる。その中で子供服への関心は35～55年まで年々増加傾向を示し、婦人雑誌から独立して子供ファッション雑誌が出現するまでとなった。

以上より子供服への対応の「行為」と「意識」の変化は、生活変遷のバロメーターとして用いた婦人雑誌、育児雑誌に「形態細分化」という形ではっきり示された。これは昭和35年から55年頃にかけての実用生活そのものの時代から、それ以後の製作技術の二極化や雑誌の「読む」から「見る」ものとしての時代へと、生活行動と意識がこの30年で多様化、細分化、専門化、享樂化したことを示している。

今回は、子供服という点からの考察であったが、今後は衣食住のあらゆる点からみることにより、より一層生活の時代変容が把握できると思われる。

本報告をまとめるにあたり、ご教示頂きました本学の湯本和子教授にお礼申し上げます。

#### 注および引用文献

- 1) 経済企画庁『平成2年版国民生活白書』100～102頁
- 2) 井上輝子、女性雑誌研究会『女性雑誌を解説する』垣内出版 1989
- 3) 岡満男『婦人雑誌ジャーナリズム』現代ジャーナリズム出版会 1981
- 4) 諸橋泰樹『雑誌文化の中の女性学』明石書店 1993
- 5) 北澤さゆり「女性と情報と生活情報誌」『総合ジャーナリズムの研究』26(4) 東京社 1989
- 6) 稲葉武司、森本八月喜「婦人総合誌の実用記事についての考察」『共立女子大学家政学部紀要』第31号 1985
- 7) 周立群『雑誌新聞総かたろぐ』メディア・リサーチセンター 1992
- 8) 「朝日新聞」1990. 10. 7. 朝刊
- 9) 『ベビーセサミ』（『セサミ増刊号』）婦人生活社 1990 160頁
- 10) 高度成長期を考える会『高度成長期と日本人 Part 2 家庭篇 家族の生活の物語』日本エディタースクール出版 1985 136～142頁
- 11) 青井和夫、松原治郎、副田義也『生活構造の理論』有斐閣 1971 154頁
- 12) 内田直子「現代における衣生活とその意識—乳幼児服を通して—」共立女子大学修士論文 1991

（うちだ なおこ 本学助手・家庭生活科服飾研究室）